

令和7年度 学校経営の改革方針（案）

鈴鹿市立合川小学校

I めざす学校像

学校教育目標『豊かな人間性とたくましい実践力をもった児童の育成』

めざす学校像

- ・確かな学力の育成をめざし、日々の学習を大切にする学校
- ・子ども同士が繋がり合い、優しさと笑顔あふれる学校
- ・地域や保護者に信頼され、地域とともにある学校

めざす子ども像

- ・自ら学び豊かに表現しようとする子
- ・心豊かで思いやりのある子
- ・心身ともにたくましい子

めざす教師像

- ・子どもにより添い、共感できる教師
- ・指導力を高めるため、自己研鑽に努める教師
- ・豊かな人間性をもち、円滑な人間関係が築ける教師
- ・教育に情熱と使命感をもつ教師

II 現状と課題

- 1 令和6年度は、全国学力・学習状況調査の結果が国語、算数とも全国平均値を上回り、特に国語については、前年よりも結果が大幅に向上した。また、学校で実施した児童アンケートでは、「学校は楽しいですか」に91%、「授業の内容はよくわかりますか」に89%の児童が肯定的な回答をしている。このことは、学習活動全般に対する児童の意欲が高く、本校の「わかる授業」をめざした授業改善や、生活面における指導が一定の成果を上げているものと捉えている。しかし、10%の児童が否定的な回答をしているため、その子たちについて、どのような指導や支援を行っていくかが課題である。
- 2 近年、本校の経年的な課題として、自己肯定感の低さが挙げられており、児童アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」という問いに対して、肯定的な回答が年々下がり続けていた。特に、令和5年度は71%と最も低い数値であった。
そこで昨年度、非認知能力について本校独自の指標を作成し、年間を通じて各担任が非認知能力の向上を図ってきた。その結果、自己肯定感を含めた4つの指標において、児童アンケートの肯定的な回答が、すべて90%を超える結果となった。
- 3 長期欠席児童への対応や、新たな不登校を生まない取組として、不登校、不登校傾向の児童について日常的に情報交換を行い、教職員間で情報共有を図るとともに、家庭訪問等の対応を行った。また、保護者との連携を密に行い、必要に応じてケース会議や支援会議を実施した。その結果、不登校傾向が改善された児童がいる一方で、長期欠席が改善されていない児童もあり、当該児童への対応が課題である。
- 4 本校の特色である外国語教育については、児童アンケート「英語の授業や活動は楽しいですか」に肯定的な回答をした児童は94%であり、前年度の87%を上回った。これは、本校独自の取組において、内容を充実させ回数を確保してきたことや、低学年が英語に触れる機会を大切にしてきたことが結果に繋がっていると思われる。今後も、英語に触れる時間やコミュニケーションを図る機会を充実させていく。
- 5 昨年度は、教職員の月平均労働時間外時間が22.3時間であり、前年度の37.6時間より大幅に短縮することができた。また、労働時間外時間が月45時間を超えた教職員は年間7人であり、前年度の25人を下回っている。これは、一人ひとりがワークライフバランスの意識を高めたことや、定時退校日の徹底を行ってきたこと、会議の内容を見直してきたことが効果として表れている。しかし、会議時間については、設定時間をオーバーしてしまうことも多いため、より効率的な会議の持ち方を検討していくことが課題である。

Ⅲ 経営方針

- 1 確かな学力を育成する学校づくり
- 2 豊かなかかわりを育み、豊かな心を育てる学校づくり
- 3 健やかな心と体を育む学校づくり
- 4 楽しく安心して学べる学校づくり
- 5 地域や保護者とともにある学校づくり
- 6 教職員の働き方改革が推進された学校づくり

Ⅳ 具体的な行動計画

[確かな学力を育成する学校づくり]

- 1 「わかる授業」をめざした指導方法の工夫・改善
 - ・全担任が研究授業を実施し、個々の授業力向上を図る。児童の「主体的に学ぶ力」を育成し、「自律した学習者」となれるよう、天栄中学校区で連携した授業改善を行っていく。
 - ・全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの分析を行い、課題を学校全体で共有する。県や市のワークシートを活用するなど、課題改善に向けた取組を行う。
- 2 効果的な ICT 機器の活用
 - ・全学年が ICT 機器を活用した授業を日常的に実施する。教員同士で情報を交換し、効果的な取組や指導方法を共有したり必要に応じて研修会を実施したりする。
 - ・ICT 支援員と連携し、効果的な活用を図る。
 - ・4年生以上は日常的な端末の持ち帰りを行い、家庭学習においても ICT 機器の積極的な活用を行う。
- 3 外国人児童生徒支援員の有効活用
 - ・モーニングイングリッシュや1年生、2年生を対象としたイングリッシュタイムを実施することで、英語に慣れ親しむ時間を設け、コミュニケーション能力の育成を図る。

[豊かなかかわりを育み、豊かな心を育てる学校づくり]

- 1 非認知能力の育成
 - ・鈴鹿市が大切にしている4つの非認知能力について、学校独自の指標を作成し、学習や行事において全教職員で共通した取組を行う。児童が主体的に活動する場や自他の違いやよさを認められる場を設定し、目標設定や結果の振り返りを行わせ、適切な評価を行う。
- 2 人権教育を基盤にした集団づくり
 - ・児童の問題を共有し全教職員で統一した指導にあたる。また、各学年で、特別支援学級籍児童への理解を深める授業を行う。

[健やかな心とからだを育む学校づくり]

- 1 体力、運動能力の向上
 - ・全学年で体力調査を実施し、結果をもとに本校児童の苦手種目に対して効果的な取組を、年間を通して実施する。本校児童は持久力に課題があるため、体育の時間に3分間走やなわとびを取り入れる。
- 2 基本的な生活習慣の向上
 - ・基本的な生活習慣を身に付け、健康で心豊かな生活を営むことができる児童を育てる。また、食育の授業を通して、望ましい食習慣を身に付け自ら健康管理ができる児童を育てる。

[楽しく安心して学べる学校づくり]

- 1 長期欠席児童への対応
 - ・教職員間で情報共有を密に行い、全教職員で共通した対応、支援を行う。
 - ・家庭と連携し、児童に寄り添った支援を行うとともに、必要に応じてケース会議や支援会

議を開催し、関係機関とも連携した対応を行う。

2 いじめや問題行動への対応

- ・日常的に、子ども同士の関係や変化を敏感に感じ取れるよう気を配り、いじめや問題行動の未然防止・早期発見・早期対応に努める。
- ・養護教諭に悩みを相談する児童が多いため、養護教諭、担任、管理職との連携を密にする。
- ・「いじめアンケート」を積極的に活用する。また、事案が発生した場合は速やかに「学校いじめ防止対策委員会」を開き、関係機関とも連携した対応を行う。

3 登下校時の安全確保

- ・PTAや安全安心ボランティアと連携し、登下校時の児童の安全確保に努める。
- ・地区児童会で通学班での様子を把握し、安全に登下校できるように指導を行う。

4 児童の防災、安全意識の向上

- ・防災訓練、安全教室（交通安全、連れ去り防止）を実施し、自分の命は自分で守れる児童を育てる。

[地域や保護者とともにある学校づくり]

1 地域、保護者との連携

- ・学校運営協議会での協議を大切にし、地域とともにある学校づくりを進める。
- ・学校自己評価、学校関係者評価を実施し、授業や教育活動の改善につなげる。
- ・学校だより、学年通信、ホームページ、メール配信など、情報発信に努める。
- ・学校再編についての情報共有と諸課題の検討、学校と地域、PTAが協働した取組を推進する。

2 天栄中学校区との連携

- ・天栄中学校区の小中学校と連携し、研修や生徒指導（学びの部会、育ちの部会）についての取組を推進する。

[教職員の働き方改革が推進された学校づくり]

1 職場における働き方改革の推進

- ・教職員一人ひとりのワークライフバランスの意識を高める。
- ・風通しが良く、なんでも相談できる職員室の雰囲気づくりを行う。
- ・問題が発生した場合は、一人で抱え込まない体制、関係づくりを行う。
- ・定時退校日の定期的な設定と退勤時刻の徹底を行う。
- ・会議時間の設定を行い、時間短縮のための工夫を行う。
- ・校務に偏りが無いよう、定期的な校務分掌の見直しを図る。

2 進捗管理指標と統一的な取組

【進捗管理指標】	一人当たりの月平均時間外労働	30時間以下
	年360時間を超える時間外労働者数	0人
	月45時間を超える時間外労働者の延べ人数	12人以内
	一人当たりの年間休暇取得日数	10日以上
【統一的な取組】	設定した日の定時に退校できた職員の割合	60%以上
	放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合	40%以上